

「みなとオアシスさせぼ」海風の国の賑わい・交流拠点の形成

新みなとターミナル



代表施設である「新みなとターミナル」は、ウォーターフロントに開けたガラス張りのエントランスと屋上の緑地広場が特徴的な近海航路の旅客ターミナルです。天気の良い日は広場の芝生で過ごす人達で賑わいます。

佐世保港国際ターミナル



大型クルーズ船などの発着を目的とした旅客ターミナルで、クルーズ船寄港時には佐世保市の特産品の販売などを行っています。また、クルーズ船の入港時は隣接する三浦岸壁において、クルーズ客船歓送迎イベントが行われ、客船の優雅な姿を間近で見ることができます。

くじらせ 鯨瀬ターミナル



高速船とフェリーが発着する上五島航路の旅客ターミナルです。ガラス張りの建物の4階は展望ロビーになっており、クルーズ客船入港時には撮影スポットとしても利用されます。

佐世保クルーズセンター



「佐世保港クルーズ拠点形成協定」に基づき、カーニバル社によって整備された旅客ターミナルです。今後は、佐世保港国際ターミナルと共にクルーズ客船の受け入れを行い、歓送迎イベントを開催していきます。

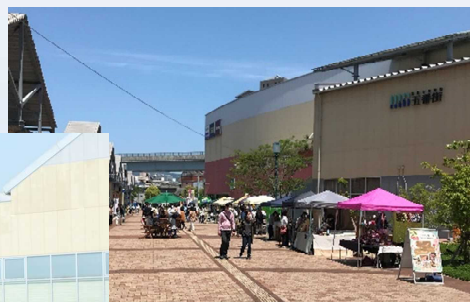
新みなとイベント広場



ターミナル・商業施設・佐世保駅などに隣接しているため人々が足を運びやすく、様々なイベント会場として利用されています。

「みなとオアシスさせぼ」海風の国の賑わい・交流拠点の形成

させぼ五番街



市民が集い楽しむ地域コミュニティの場として、また市外からの観光客等を迎える玄関口として、「人と街をつなぎ、心を結ぶ」をコンセプトとしたウォーターフロントの大型商業施設として平成25年に開業し、海辺の賑わいにつながっています。

ハーバーテラス
SASEBO迎賓館



佐世保湾を見渡すことができる披露宴会場を有する結婚式場です。目の前には「SASEBO」のオブジェがあり、市民や観光客などのフオトスポットとなっています。

イベント

させぼシーサイドフェスティバル



ヒカリノミナトSASEBO



長崎県水産加工まつり



クルーズ客船歓送迎行事



「みなとオアシスさせぼ」～集まれ！地元の名産品～

「みなとオアシスさせぼ」には、この他にもたくさんの美味しい食べ物や地酒、素敵な工芸品などがあります！！
直接お越しになって、食べて・触れてその魅力を肌で感じてください★



佐世保バーガー

昭和25年頃、米海軍から直接レシピを聞いて、作り始めたのがその起源と言われています。「手作り」で「注文を受けてから作り始める」というスタイルが特徴で、各種の基準に合格した市内店舗は「佐世保バーガー認定店」として認定書が渡されます。約30店ほどある認定店はそれぞれに趣向を凝らしたバーガーとなっており、店舗ごとに色々な味を楽しめます。



くじゅうしま 九十九島牡蠣

九十九島、佐世保港で養殖されるマガキは、小ぶりな身に旨味が凝縮された濃厚な味わいで栄養も満点です。
また、イワガキは、産卵前の身がふくよかな5～8月頃が旬です！



レモンステーキ

昭和30年代に佐世保の地で誕生した、アツアツの鉄板の上に薄切りの牛肉を敷詰め、レモン風味の醤油ベースのソースで味付けされたステーキです。レアの状態です。テーブルに運ばれてくるため、焼き加減を自分好みに調節できます。また、残ったソースをご飯にかけて食べると、肉の旨味と相まって最高の美味しさです！！



さいかい 西海みかん

主に市南部で生産され、愛情込めた日々の管理とミネラル豊富な潮風により、アミノ酸などの栄養が多く含まれます。
味はとても甘味が強いのが特徴です。



赤マテ貝

毎年2月～5月までの期間「マテ貝突き漁」と呼ばれる独特な漁法で漁が行われています。
広域的に流通していないため、春の味覚として主に地元民を中心に食されています。



せちばる 世知原茶

海に面し、山に囲まれている佐世保の山間地では、お茶の栽培も行われています。
朝晩の寒暖差が大きく、冷涼で霧深いため、高品質な茶葉が育ちます。



みかわち 三川内焼

19世紀「平戸焼」の名でヨーロッパの人々を魅了した三川内焼。400年の歴史の中で、現在も一子相伝でその技術が受け継がれています。全てが手描きのため、三川内焼のシンボルである唐子も窯元ごとに顔立ちに特徴があり、自分好みの顔立ちを見つける楽しみも味わえます。



させぼごま 佐世保独楽

佐世保を代表とする郷土民芸品のひとつで、別名「喧嘩独楽」とも呼ばれています。独楽の先端には、剣（けん）と呼ばれる鋭い鉄製の金具が打ち込まれています。単に回すだけでなく、相手の独楽にぶつけて遊んだりもします。

「みなとオアシスさせぼ」～それ行け！周辺観光施設～

九十九島

複雑に入り組んだリアス海岸と大小208の島々からなる景勝地で、1955年にはほぼ全域が「西海国立公園」に指定されており、島の密度は日本一といわれています。

隣接する、まるで九十九島の海をそのまま切り取ったような水族館・グルメやショッピングなどの施設・またシーカヤックや入り組んだ島々を近くで見ることができるクルージングなどが体験できる、複合施設が「九十九島パールシーリゾート」です。

見て・食べて・体験して！と「九十九島」や「佐世保」の魅力を十分に味わうことができ、グルメイベント「九十九島かき食うカキ祭り」など、季節にあわせた催しも行われています。

また、九十九島観光公園は、約4.7haの広大な広場で「眺望の丘」からは九十九島の大パノラマを見渡せます。土日祝にはキッチンカーも出店して、賑わいを見せています。



ハウステンボス

オランダ語で「森の家」と名が示すように街と自然が調和した、花と光のリゾート施設です。海に面し、緑が多く自然豊かな「ハーバーゾーン」には、ハーバータウンとフォレストヴィラの宿泊施設があります。

また、「テーマパークゾーン」には、季節ごとの花や緑に彩られたアートガーデンやフラワーロード、キッズ向けの屋内アスレチックや体験型デジタルアクション施設などが集結しています。

また、イベント時には花火も打ち上げられ、昼だけではなく、夜も十分楽しむことができます。

「光の王国」として、季節に応じたイルミネーションが園内を彩り、イルミネーションアワードでは9年連続で1位に輝いています。



針尾送信所

旧日本海軍が無線送信所として1918年～1922年にかけて建設したものです。

敷地内の巨大な3本の鉄筋コンクリート製の電波塔は、国内の自立式電波塔としては最古のもので、また第二次世界大戦以前から現存する塔としては日本一の高さを誇ります。

2022年5月～6月にテレビ放送された「17才の帝国」のロケ地としても使用され、その独特な佇まいがドラマを盛り上げました。

